

(提案1)

補欠の連携会員の選任の要望について

○提案内容

会員就任により退任した春日雅人連携会員（第22-23期）、死亡により退任した島本功連携会員（第22-23期）、辞職により退任した天野史郎連携会員（第22-23期）の計3名の連携会員について、後任者の選任を行うこととし、推薦を行う部を決定することとしたい。

(参考)

●補欠の連携会員の選考手続について(平成21年10月1日第82回幹事会決定)
(抄)

- 1 退任する連携会員の専門分野に係る部は、幹事会に対して補欠の連携会員の選任を別紙様式1により要望することができる。
- 2 幹事会は、前項の要望について審議し、必要があると認めるときは、補欠の連携会員の候補者（以下「候補者」という。）の推薦を依頼する部を決定する。
- 3 会長は、幹事会の決定を受けて当該部に対し、候補者の推薦を依頼する。

<別紙様式1>

要望書
(補欠連携会員候補者関係)

平成26年7月22日

日本学術会議会長 大西 隆 殿

第二部長 山本 正幸

会員就任により退任した春日雅人連携会員の後任者の補充について、下記の理由により必要であるので、補欠の連携会員の選任を行うよう要望します。

記

春日雅人連携会員の会員就任（平成24年11月30日）により、臨床医学分野の連携会員が不足し、臨床医学委員会及び循環器・内分泌・代謝分科会において、十分な審議が困難になったため。

<別紙様式1>

要望書
(補欠連携会員候補者関係)

平成26年7月22日

日本学術会議会長 大西 隆 殿

第二部長 山本 正幸

辞職により退任した天野史郎連携会員の後任者の補充について、下記の理由により必要であるので、補欠の連携会員の選任を行うよう要望します。

記

天野史郎連携会員の辞職（平成26年5月30日）により、臨床医学分野の連携会員が不足し、移植・再生医療分科会及び感覚器分科会において、十分な審議が困難になったため。

<別紙様式1>

要望書
(補欠連携会員候補者関係)

平成26年7月18日

日本学術会議会長 大西 隆 殿

第二部長 山本 正幸

死亡により退任した島本功連携会員の後任者の補充について、下記の理由により必要であるので、補欠の連携会員の選任を行うよう要望します。

記

島本功連携会員の死亡（平成25年9月28日）により、基礎生物学分野の連携会員が不足し、基礎生物学委員会及び植物学分科会において、十分な審議が困難になったため。また、農学委員会の育種学分科会や遺伝子組換え作物分科会との連携にも困難をきたすため。

提案2～7は提言等関係のため、別添2～7を御覧ください。

(提案8)

平成26年度代表派遣計画の変更

会議の派遣期間及び開催地に変更があったため、平成26年度代表派遣計画の変更を行う。

会議名称	派遣候補者(職名)	派遣期間(会期分)	開催地及び用務地	変更内容	変更理由	備考
国際科学会議(ICSU)アジア・太平洋地域委員会会合	山形 俊男 連携会員 (独)海洋研究開発機構アプリケーションラボ所長	会期未定 ↓ 2014年8月27日～9月4日	未定 ↓ オークランド(ニュージーランド)	派遣期間、開催地の変更	主催者の都合のため	国際委員会Gサイエンス及びICSU等分科会春日委員長より変更通知 【第3区分】

土曜日・日曜日及び祝日におけるシンポジウム、講演会等の開催について（平成23年12月21日第142回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p>(略)</p> <p>2 開催日・会場 (1) 土曜日、日曜日及び祝日に使用することができる回数（年末年始を除く。）は、<u>年度内で32回（4半期ごとにおおむね8回）までとし、対象となる講演会、シンポジウム等は、4半期ごとに幹事会で決定する。</u> ※ <u>別表1に掲げる幹事会の前月末まで希望を受付け、多数の場合は、同幹事会において内容を精査の上、抽選を行う。</u></p> <p>(2) 使用することができる会場は講堂とする。 <u>講演会、シンポジウム等と同日に委員会等を併せて開催する場合には、1階のラウンジ又は自販機コーナー室で委員会等を行うものとする。</u></p> <p>3 運営 (1) <u>主催者は責任をもって会場等の使用にあたるとともに、緊急時の際の避難誘導に携わる人員を提供する。</u> (2) <u>事務局の関係課職員（常勤の職員でない者を含む。）が出勤し、庁舎管理にあたるとともに、必要に応じ、講演会、シンポジウム等で用いる機材の事前準備等の支援を行う。</u></p> <p>4 日本学術会議主催学術フォーラムとの関係 <u>土・日曜及び祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムについては、上記2の開催回数に含めるものとし、別表2の類型区分に応じ、土・日曜及び祝日開催の他の講演会、シンポジウム等と同時に、幹事会において決定する。</u></p> <p>5 国際会議との関係 <u>国際会議（関連行事を含む。）については、上記2の対象から除くこととする。</u></p>	<p>(略)</p> <p>2 開催日・会場 (1) 土曜日、日曜日及び祝日に使用することができる回数（年末年始を除く。）は、<u>年18回とする。</u></p> <p>(2) 使用することができる会場は講堂とする。</p> <p>3 運営 (1) <u>事務局の関係課職員が出勤し、講演会、シンポジウム等の運営にあたる。</u> (2) <u>主催者は責任をもって会場等の使用にあたる。</u></p> <p>4 日本学術会議主催学術フォーラム等 <u>日本学術会議主催学術フォーラム及び国際会議（関連行事を含む。）については、開催の都度、別途幹事会で協議する。</u></p>

【別表1】「学術フォーラム」「土日祝日開催の講演会、シンポジウム等」の

決定時期

4月 6月 9月 12月 3月

前年度	当該年度			
-----	------	--	--	--

<決定（抽選）>

12月 幹事会		第1 四半期		
------------	--	-----------	--	--

<決定（抽選）>

	3月 幹事会	第2 四半期		
--	-----------	-----------	--	--

<決定（抽選）>

		6月 幹事会	第3 四半期	
--	--	-----------	-----------	--

<決定（抽選）>

			9月 幹事会	第4 四半期
--	--	--	-----------	-----------

【別表2】「学術フォーラム」「土日祝日開催の講演会、シンポジウム等」を
幹事会に付議する際の区分

類型	経費の補助	受付業務等の職員補助	
区分Ⅰ	○ あり	○・× あり・なし	学術フォーラムのみ
区分Ⅱ	× なし	○ あり	学術フォーラム 又は 共催・後援する学協会等が無く、補助の 必要性が高い講演会、シンポジウム等
区分Ⅲ	× なし	× なし	学術フォーラム 又は 上記以外の講演会、シンポジウム等

※ いずれの区分を希望するかを明示すること

附 則（平成 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）

この決定は、決定の日から施行する。ただし、2（1）に規定する4半期ごとの回数制限、受付、抽選については、平成27年度以降に開催される講演会、シンポジウム等から適用するものとする。

日本学術会議主催学術フォーラムの選定及び実施について（平成24年2月20日第146回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p>1 概要</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>(6) 年間開催回数 <u>経費負担を要するものは、原則として年10件程度とする。</u> (略)</p> <p>(8) 開催場所 原則として日本学術会議講堂 土曜日、日曜日、祝日の講堂使用については、「<u>土曜日・日曜日及び祝日におけるシンポジウム、講演会等の開催について</u>」 (平成23年12月21日第142回幹事会決定)の定めるところによる。</p> <p>2 テーマの選定まで</p> <p>① 各部及び委員会に対し、企画案の募集通知を发出する。 (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画案の募集は、<u>前年度の11月末日までに1回、2月末日までに1回、当該年度の5月末日までに1回、8月末日までに1回行い、それぞれ翌月に行う幹事会に提出する。</u> <p>② 各部又は委員会の企画案を受領する。 (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画案には次の事項を記載するものとする。(別紙1参照) <ul style="list-style-type: none"> i) ~ v) (略) vi) <u>その他希望事項（開催場所、企画実施に係る経費負担の要否、担当職員の人的支援の要否をそれぞれ記載する。）</u> <p style="text-align: center;"><u>(削除)</u></p> <p>③ 幹事会において<u>協議のうえ、企画を決定する。</u></p> <p>④ <u>四半期ごとに、学術フォーラムの経費負担又は職員の人的支援を要する企画案は計3件（うち経費負担を要するものは、年度で10件）まで承認する。</u></p> <p>⑤ <u>また、上記④を含む全ての企画案において、土日祝日開催は四半期ごとに計2件までとする。</u></p>	<p>1 概要</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>(6) 年間開催回数 原則として年10件程度とする。 (略)</p> <p>(8) 開催場所 原則として日本学術会議講堂 土曜日、日曜日、祝日の講堂使用については、<u>開催の都度、別途幹事会で協議する。</u></p> <p>2 テーマの選定まで</p> <p>① 各部及び委員会に対し、企画案の募集通知を发出する。 (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画案の募集は、<u>前年度の3月末までに1回、当該年度の9月末までに1回行い、それぞれ5件程度承認する。</u> <p>② 各部又は委員会の企画案を受領する。 (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画案には次の事項を記載するものとする。(別紙1参照) <ul style="list-style-type: none"> i) ~ v) (略) <p>③ <u>会長が適宜、副会長と相談の上、選定案を策定し、幹事会に提案する。</u></p> <p>④ <u>幹事会において決定する。</u></p>

⑥ なお、上記件数の限度を上回る場合は、企画案につき、抽選を行い、企画を決定する。

3 スケジュール及び業務分担
(略)

	担当		時期	備考
	会員等	事務局		
フォーラムのコーディネート（後援者、後援団体、プログラムの確定）	○		提案する幹事会開催日の2週間前まで	(略)
フォーラム開催について幹事会に提案、承認を得る		○	上記2に定める幹事会	(略)
(以下 略)	(略)	(略)	(略)	(略)

(略)

3 スケジュール及び業務分担
(略)

	担当		時期	備考
	会員等	事務局		
フォーラムのコーディネート（後援者、後援団体、プログラムの確定）	○		提案する幹事会（開催日の1ヶ月以上前）開催日の2週間前まで	(略)
フォーラム開催について幹事会に提案、承認を得る		○	開催日の1ヶ月以上前の幹事会	(略)
(以下 略)	(略)	(略)	(略)	(略)

(略)

附 則（平成 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）

この決定は、決定の日から施行する。ただし、2に規定する4半期ごとの回数制限、募集、抽選については、平成27年度以降に開催される学術フォーラムから適用するものとする。

日本学術会議分野別委員会及び分科会等について（平成 20 年 10 月 23 日第 67 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p>(略)</p> <p>VI 講演会、シンポジウム等の開催について (略)</p> <p>2 講演会、シンポジウム等の実行 (略)</p> <p>③ 講演会、シンポジウムの開催に当たっては、次の点に御留意ください。</p> <p>(略)</p> <p>○ 会場は、日本学術会議の講堂、会議室等を使用できます。なお、講堂と併せて会議室を使用する場合、会議室の予約は、原則 5 室までとします。使用できる日時は土・日・祝日及び年末年始を除く、10 時から <u>18 時まで</u>です。ただし、<u>32 回（日本学術会議主催学術フォーラムの回数を含む。）</u>を限度に（年末年始は除く。）、土曜日、日曜日及び祝日においても講堂を使用することができます（注 21）。</p> <p>(略)</p>	<p>(略)</p> <p>VI 講演会、シンポジウム等の開催について (略)</p> <p>2 講演会、シンポジウム等の実行 (略)</p> <p>③ 講演会、シンポジウムの開催に当たっては、次の点に御留意ください。</p> <p>(略)</p> <p>○ 会場は、日本学術会議の講堂、会議室等を使用できます。なお、講堂と併せて会議室を使用する場合、会議室の予約は、原則 5 室までとします。使用できる日時は土・日・祝日及び年末年始を除く、10 時から <u>17 時まで</u>です。ただし、<u>18 回</u>を限度に（年末年始は除く。）、土曜日、日曜日及び祝日においても講堂を使用することができます（注 21）。</p> <p>(略)</p>

附 則（平成 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）

この決定は、決定の日から施行する。

日本学術会議 学術フォーラム(土日祝に講堂使用のもの)

平成25年度

回数	担当	主体	開催日	曜日	学術フォーラムの名称
1		日本学術会議	平成25年6月29日	土	「教養教育は何の役に立つのか? ジェンダー視点からの問いかけ」
2		日本学術会議	平成25年7月7日	日	「格差社会における子ども子育て政策のこれから」
3		日本学術会議	平成25年9月7日	土	「新型出生前診断の広がりや遺伝医療の発展への対応:ヒトの遺伝と遺伝性疾患の正しい理解に向けて」
4		日本学術会議	平成25年11月16日	土	「地殻災害の軽減と学術・教育」
5		日本学術会議	平成25年12月8日	日	「多文化共生社会の現在と在日外国籍女性」
6		日本学術会議	平成26年1月11日	土	「アジアの経済発展と地球環境の将来—人文・社会科学からのメッセージ—」

平成24年度

1		日本学術会議	平成24年9月1日	土	「リスクを科学するフォーラム」
2		日本学術会議	平成24年12月22日	土	「高レベル放射性廃棄物の処分を巡って」
3		日本学術会議	平成25年2月2日	土	「大学教育の質的転換を考える分野別の参照基準と人文・社会科学教育の可能性」

土曜日・日曜日・祝日 講演会、シンポジウム等の講堂使用(平成25年):2013

回数	担当	主体	開催日	曜日	講演会、シンポジウム等の名称
1	第3部	数理科学委員会数理科学分野の参照基準検討分科会	平成25年1月13日	日	日本学術会議公開シンポジウム「学士課程教育における数理科学分野の参照基準を考える」
2	第1部	社会学委員会社会学コンソーシアム分科会	平成25年1月27日	日	日本学術会議公開シンポジウム「東日本大震災とマイノリティ」
3	第3部	土木工学・建築学委員会、機械工学委員会	平成25年2月9日	土	日本学術会議公開シンポジウム「第4回科学技術人材育成シンポジウム工学教育の新しい展開に向けて—グローバル化への現状と課題」
4	第1部	政治学委員会	平成25年2月17日	土	公開シンポジウム「ユーロ危機とヨーロッパの政治経済」
5	第1部	社会学委員会複合領域ジェンダー分科会	平成25年2月23日	土	公開シンポジウム「災害復興とジェンダー」
6	第3部	環境学委員会環境思想・環境教育分科会	平成25年3月17日	日	公開シンポジウム「災害と環境教育」
7	第1部	社会学委員会社会理論分科会	平成25年3月30日	土	公開シンポジウム「震災復興の倫理—新自由主義と日本社会」
8	第1部	社会学委員会メディア・文化研究分科会	平成25年4月6日	土	公開シンポジウム「ネットワーク社会と知識労働者:コモンウェルスの構築を目指して」
9	第3部	材料工学委員会	平成25年4月13日	土	公開シンポジウム「材料工学の人材育成」
10	第2部	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類分科会	平成25年4月27日	土	公開シンポジウム「中等教育における『人種』『民族』とヒトの多様性」
11	第1部	経営学委員会「リスクを科学する」分科会	平成25年5月18日	土	公開シンポジウム「リスクを科学する」
12	第1部	政治学委員会、同委員会国際政治分科会	平成25年6月8日	土	公開シンポジウム「Response to Power shift under the Age of Globalized Economy グローバル化における『パワーシフト』への対応」
13	第1部	法学委員会、同委員会学術法制分科会	平成25年7月6日	土	公開シンポジウム「親密圏と家族」
14	第3部	土木工学・建築学委員会土木工学・建築学分野の参照基準検討分科会	平成25年7月13日	土	公開シンポジウム「学士課程教育における土木工学・建築学分野の参照基準案」
15	第2部	基礎医学委員会機能医科学分科会	平成25年9月28日	土	日本学術会議公開シンポジウム「心とからだの理解と治療に向けての新戦略—人体シミュレーションによる医療・創薬の推進—」
16	第2部	心理学・教育学委員会・基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同行動生物学分科会	平成25年9月29日	日	日本学術会議公開シンポジウム「ここまで分かった水生動物行動の謎」
17	第1部	社会学委員会社会理論分科会	平成25年11月9日	土	日本学術会議公開シンポジウム「グローバル化時代における民主主義的統治とは」
18	第1部	政治学行政学地方自治分科会	平成25年11月23日	土	日本学術会議公開シンポジウム「新たな統治機構改革—道州制をめぐる—」
19	第1部	哲学委員会	平成25年12月7日	土	日本学術会議公開シンポジウム「3・11 後の『いのち』を語る言葉を考える」

土曜日・日曜日・祝日 講演会、シンポジウム等の講堂使用(平成24年):2012

回数	担当	主体	開催日	曜日	講演会、シンポジウム等の名称
1	第2部	基礎生物学委員会生物物理学委員会	平成24年1月9日	祝	日本学術会議公開シンポジウム「先端的異分野融合を核とした構造生命科学の飛躍に向けて」
2	第3部	土木工学・建築学委員会、機械工学委員会	平成24年1月21日	土	日本学術会議公開シンポジウム科学技術人材育成コンソーシアム「第3回科学技術人材育成シンポジウム」
3	第1部	社会学委員会社会学コンソーシアム分科会	平成24年1月22日	日	日本学術会議公開シンポジウム「日本そして世界へのメッセージ—3.11東日本大震災・原発災害後の社会学と社会学から—」
4	第1部	政治学委員会、政治学委員会比較政治学分科会	平成24年2月18日	土	公開シンポジウム「日韓福祉政治の新しい展開」
5	第1部	政治学委員会	平成24年5月12日	土	日本学術会議公開シンポジウム「一大都市改革の新たな展開—」
6	第1部	社会学員会メディア・文化研究分科会	平成24年6月9日	土	日本学術会議公開シンポジウム「3.11福島第一原子力発電所事故をめぐる社会情報環境の検証—テレビ・ジャーナリズム・メディアの特性と課題」
7	課題別	大学教育の分野別質保証推進委員会経営学分野の参照基準検討分科会	平成24年6月16日	土	日本学術会議公開シンポジウム「学士課程教育における経営分野の参照基準」
8	幹事会附置	若手アカデミー委員会	平成24年6月23日	土	日本学術会議公開シンポジウム「『心の時代』と学術—若手研究者とともに考える社会の不安と喜び—」
9	第1部	社会学員会社会変動と若者問題分科会	平成24年6月30日	土	日本学術会議公開シンポジウム「若者は社会を変えるか—新しい生き方・働き方を考える—」
10	第1部	法学委員会	平成24年7月7日	土	第6回基礎法学総合シンポジウム「巨大自然災害・原発災害と法—基礎法学の視点から—」
11	課題別	大学教育の分野別質保証推進委員会 言語・文学分野の参照基準検討分科会、言語・文学委員会古典文化と言語分科会、文化の邂逅と言語分科会、科学と日本語分科会	平成24年7月14日	土	日本学術会議公開シンポジウム「学士課程教育における言語・文学分野の参照基準」
12	課題別	大学教育の分野別質保証推進委員会 法学分野の参照基準検討分科会、法学委員会	平成24年7月21日	土	日本学術会議公開シンポジウム「これからの法学教育—法学分野の【参照基準】を考える—」
13	第1部	第1部国際協力分科会	平成24年9月29日	土	日本学術会議公開シンポジウム「高齢社会論の最前線」
14	第1部	社会学委員会複合領域ジェンダー分科会	平成24年10月13日	土	日本学術会議公開シンポジウム「雇用崩壊とジェンダー」
15	第3部	材料工学委員会	平成24年10月27日	土	日本学術会議公開シンポジウム「材料工学の温故知新」
16	第1部	心理学・教育学委員会脳と意識分科会、基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳と心分科会	平成24年12月1日	土	日本学術会議公開シンポジウム「脳と意識」
17	第1部	哲学委員会	平成24年12月8日	土	日本学術会議公開シンポジウム「原発災害による苦難と科学・学術の責任」
18	第2部	健康・生活科学委員会家政学分野の参照基準検討分科会	平成24年12月22日	土	日本学術会議公開シンポジウム「大学教育における家政学分野の質保証」

(提案10)

日本学術会議主催学術フォーラム「我が国の知的生産者選定に係る公共発注システムの創造性を喚起する施策に向けて一会計法・地方自治法の改正を問う一」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議
2. 後 援(予定)： 日本建築学会、土木学会、日本造園学会、日本都市計画学会、こども環境学会
3. 開催日時：平成26年9月16日(火) 13:15～17:00
4. 開催場所：日本学術会議講堂
5. 開催趣旨：

設計、デザイン、芸術的創作等は文化的な生活そのものを豊かにするのみならず、それが環境や製品の付加価値として観光や商業的、あるいは産業的な競争力に寄与している。グローバル化している現代、その設計、デザイン、芸術的創作等創造性を問われる領域は経済的にも極めて重要になりつつある。設計、デザイン、芸術的創作も役務として認識され、物の売買と同様の公共発注—公共調達—が、明治22年制定された会計法により行われてきた。しかし時代は設計、デザイン、芸術的創作や高度な技術を要する知的生産、知的サービスと物の売買と同列に扱うことが極めて不合理になり、それが国の利益を損なう状態になっている。我が国は創造性、知的生産、によって環境価値をあげ、世界に寄与しなければならない。そのためにはその活動を阻害する要素を取り除き、創造性を喚起する社会システムを早急に構築し、推進する必要がある。創造立国、知財立国、観光立国を目指す我が国の創造性を喚起する社会システムの確立を議論する。
6. 次 第(予定)
 1. 開会挨拶
仙田 満(日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授)
 2. 議論の背景

小澤紀美子(日本学術会議連携会員、東京学芸大学名誉教授)

3. 全国アンケートの報告

南 一誠(日本学術会議連携会員、芝浦工業大学工学部教授)

4. 現状の問題と改善の方向

- ・会計法、自治法の仕組みとしての問題と改善のための提案

福井 秀夫(日本学術会議連携会員、政策研究大学院大学教授)

- ・公共発注システムの我が国の特異性

木下 誠也(日本大学生産工学部教授)

- ・公共施設における設計入札によらない設計者選定の課題と改善

仙田 満(日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授)

5. 総合討議

司会 木下 勇(日本学術会議連携会員、千葉大学大学院園芸学部教授)

他講演者

まとめ

矢田 努(日本学術会議連携会員、愛知産業大学大学院造形学研究科教授)

(提案 1 1)

日本学術会議主催学術フォーラム「ICT を生かした社会デザインと人材育成(社会デザインと多様性編)」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議
2. 開催日時 平成 26 年 11 月 7 日（金） 13:00～17:00
3. 開催場所 日本学術会議講堂

4. 開催趣旨

ブロードバンドやスマートフォンなど、世界的にも類のない ICT インフラが日本には存在するが、その有効な活用や新しい成長産業の創出は未だ十分とはいええない。特に、ICT による新たなイノベーション創出のためには、幅広い分野の知恵を集めた新しい法や社会規範などの社会デザインができる人材が求められている。我々は、第 1 回目のフォーラムでは主として法曹界の方を招いて個人情報保護、なりすましなどの問題を技術、法律両面からディスカッションした。また、第 2 回目のシンポジウムでは、ICT における人材育成と、それが社会デザインにつながっていくのかどうかについて大学、政策担当者、学生や企業の立場など多角的な議論を行った。

その結果、イノベーティブな高度人材など、多様性の受け入れ、活用について企業側の変革の必要性など、新たな問題の提起を行った。そこで、本フォーラムでは、特に、多様性に着目し ICT を生かした社会デザインとイノベーティブな高度人材育成について議論を行う。本フォーラムでは、生命の動作原理の理解には、生命システムの時空間動態情報を与えるバイオイメージングと、溢れかえる情報を取り扱うバイオインフォマティクス技術の融合が重要 になると考え、この 2 つの分野の接点を探りながら、きたる新しい生命科学の像を描きたい。

5. 次 第（予定、交渉中のものも含む。）

(1) コーディネーター

辻 ゆかり（日本学術会議連携会員、NTT 西日本技術革新部研究開発センター所長）

下條 真司（日本学術会議連携会員、大阪大学サイバーメディアセンター

教授)

大柴小枝子(日本学術会議連携会員、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究
科教授)

(2) 講演

仮題「イノベーションとダイバーシティ推進」

國井 秀子(芝浦工業大学学長補佐・大学院工学マネジメント研究科教授)

(3) パネルディスカッション

司会

下條 真司(日本学術会議連携会員、大阪大学サイバーメディアセンター
教授)

パネリスト

辻 ゆかり(日本学術会議連携会員、NTT 西日本技術革新部研究開発セン
ター所長)

尾家 祐二(日本学術会議第三部会員、九州工業大学理事・副学長)

関根 千佳(同志社大学政策学部教授)

砂原 秀樹(奈良先端科学技術大学院情報科学センター教授)

國井 秀子(芝浦工業大学学長補佐・大学院工学マネジメント研究科教授)

(提案12)

公開シンポジウム「初等・中等教育課程における『ヒトの遺伝学』教育の課題と推進方策」の開催について

1. 主 催：日本学術会議第二部
2. 共 催：お茶の水女子大学、NPO 法人「遺伝カウンセリング・ジャパン」、日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセリング学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成26年9月6日（土）14：30～16：30
5. 場 所：お茶の水女子大学理学部3号館701室
6. 部会等の開催：なし

7. 開催趣旨：

我が国では、初等・中等教育課程において、ヒトの遺伝についての教育がほとんど行われていない。そのため、今日の遺伝学や遺伝医療における著しい進歩を正しく理解し社会生活の中で活用していくためのリテラシーが、著しく不足している。例えば、人々の遺伝や遺伝性疾患などに関する理解不足から、遺伝性疾患やその患者に対する誤解や偏見が生まれ、また、新型出生前診断の開発やその適用の広がりによる生命の選別や中絶の増加などの可能性が懸念されている。また遺伝リテラシーの不足は、理由のない人種差別や偏見を生む原因にもなっている。そういった状況を改善するために、初等・中等学校課程からのヒトの遺伝学教育の必要性が叫ばれるようになって久しいが、未だ実現に至っていない。人々が多様性を受容する社会を作り、遺伝医療の正しい発展を支えるためには、社会における遺伝リテラシーを定着させることが不可欠と考えられるが、そこにはどのような課題があり、また推進方策が考えられるのか、教育関係者、人類遺伝学や遺伝性疾患・遺伝医療の専門家などにより、課題の所在を明らかにし、将来に向けて何が出来るかを議論したい。

8. 次 第：

- 14 : 30 開会の挨拶
山本 正幸* (日本学術会議第二部会員、基礎生物学研究所所長)
- 14 : 35 生物学教育におけるヒトの多様性
市石 博 (東京都立国分寺高校教諭)
- 15 : 05 ヒトの遺伝リテラシー向上を目指した遺伝医学関連学会の取組
渡邊 淳 (日本医科大学附属病院遺伝診療科 准教授)
- 15 : 35 パネルディスカッション
(司会) 室伏きみ子* (日本学術会議第二部会員、お茶の水女子大学寄附研究部門教授)
(パネリスト)
福嶋 義光 (日本学術会議連携会員、信州大学医学部教授)
齋藤加代子 (東京女子医科大学遺伝子医療センター教授)
高田 史男 (北里大学大学院教授)
菌部 幸枝 (お茶の水女子大学附属中学校教諭)
- 16 : 30 閉会

(*印の講演者は、主催部委員)

(提案 1 3)

公開シンポジウム「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ 2014」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議 第三部
2. 共 催：理学・工学系学協会連絡協議会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 26 年 9 月 26 日（金）13：30 ～ 17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：

日本学術会議第三部は、理学・工学系の学協会との連携を強めるために、第三部役員会の下に「理学・工学系学協会連絡協議会」を設置した。その中での議論から、初の試みとして「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ」の作成が計画され、学術会議における各分野と学協会の連携した作業により、2011 年 7 月、科学・夢ロードマップの公開に至った。

今回は、東日本大震災から 3 年たち、“科学・技術が、根幹となる科学の発展、および持続可能で豊かな社会の実現に向けて何ができるだろうか”という視点に立ち、「理学・工学における科学・夢ロードマップ」2014 年度版を作成した。

シンポジウムでは、第三部の 11 の委員会が一堂に会して、各分野の科学・夢ロードマップについて講演を行う。その後の総合討論では、「Science for Science, Science for Society」について、パネリストおよび会場の参加者とも意見交換を行いながら、科学の夢を広く社会へ発信する予定である。

1. 次 第：

13:30-13:40 開会挨拶

荒川 泰彦*（日本学術会議第三部会員、東京大学生産技術研究所教授・

東京大学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構長)

- 13:40-13:55 「環境学の科学・夢ロードマップ」
石川 幹子* (日本学術会議第三部会員、中央大学理工学部人間総合理工
学科教授)
- 13:55-14:10 「数理科学の科学・夢ロードマップ」
楠岡 成雄* (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院数理科学研究科
教授)
- 14:10-14:25 「物理学の科学・夢ロードマップ」
伊藤 早苗* (日本学術会議第三部会員、九州大学副学長、応用力学研究
所教授)
- 14:25-14:40 「地球惑星科学の科学・夢ロードマップ」
中村 正人* (日本学術会議第三部連携会員、東京大学大学院理学系研究
科教授)
- 14:40-14:55 「情報学の科学・夢ロードマップ」
西尾章治郎* (日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院情報科学研究科
教授)
- 14:55-15:10 「化学の科学・夢ロードマップ」
中村 栄一* (日本学術会議第三部連携会員、東京大学大学院理学系研究
科教授)
- 15:10-15:25 「総合工学の科学・夢ロードマップ」
渡辺美代子* (日本学術会議第三部会員、(独)科学技術振興機構執行役)
- 15:25-15:40 「機械工学の科学・夢ロードマップ」
岸本喜久雄* (日本学術会議第三部会員、東京工業大学大学院理工学研究
科教授)
- 15:40-15:50 休憩
- 15:50-16:05 「電気電子工学の科学・夢ロードマップ」

石原 宏* (日本学術会議第三部会員、東京工業大学名誉教授)

16:05-16:20 「土木工学・建築学の科学・夢ロードマップ」

依田 照彦* (日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院創造理工学
学部教授)

16:20-16:35 「材料工学の科学・夢ロードマップ」

前田 正史* (日本学術会議第三部会員、東京大学理事・
副学長、生産技術研究所教授)

16:35-17:20 総合討論「Science for Science, Science for Society」

ファシリテーター：

依田 照彦* (日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院創造理
工学部教授)

パネリスト：

相原 博昭* (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科
教授)

石川 幹子* (日本学術会議第三部会員、中央大学理工学部人間総合理
工学科教授)

鷺谷いづみ (日本学術会議第二部会員、東京大学農学系研究科教授)

今田 高俊 (日本学術会議第一部会員、東京工業大学名誉教授)

17:20-17:30 閉会挨拶

渡辺美代子* (日本学術会議第三部会員、(独) 科学技術振興機構執行役)

(*印の報告者等は、主催部会員)

(提案 1 4)

公開シンポジウム「歴史教育シンポジウム ナショナリズムと歴史教育
ーヨーロッパを中心としてー」の開催について

- 1 主 催 日本学術会議史学委員会、日本歴史学協会
- 2 日 時 平成 26 年 10 月 25 日 (土) 13 : 30 ~ 17 : 30
- 3 場 所 駒澤大学 駒沢キャンパス 1 号館 1 - 402 教場
- 4 分科会 開催予定なし

5 開催趣旨

本委員会は昨年、「ナショナリズムと歴史教育ー東アジアを中心にー」をテーマとしてシンポジウムを開催し、近年の東アジアで国家間の利害衝突が地域秩序を揺るがす大きな不安定要素となっている状況に鑑み、その背景にあるナショナリズムの問題とそれを歴史教育でどう扱うかを検討した。いっぽう、一般に EU の発展などで国家統合が進んでいると思われるヨーロッパにおいても、スコットランドの独立問題やウクライナの国家分裂など、逆に地域の分離独立を求める動きが顕在化している。そこで今回は、根深いナショナリズム問題を、ヨーロッパに即して考えたい。

6 次 第

13:30~13:35

開会挨拶 :

久保 亨* (日本学術会議第一部会員、信州大学人文学部教授)

13:35~13:50

趣旨説明 :

井野瀬久美恵* (日本学術会議第一部会員、甲南大学文学部教授)

13:50~16:15

報 告

富田 理恵 (東海学院大学人間関係学部准教授)

「ナショナリズムとスコットランド」

篠原 琢（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）

「境界地域のナショナリズム：中央ヨーロッパの近代」

早川 和彦（筑波大学附属駒場高等学校教諭）

「国民文学と国民国家～ドーデの『最後の授業』」

16:15～16:25

休憩

16:25～17:25

総合討論

17:25～17:30

閉会挨拶：

廣瀬 良弘（日本歴史学協会会長、駒澤大学学長）

7 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の報告者等は、主催委員会委員)

(提案 15)

公開シンポジウム「中型高輝度放射光源に期待するこれからの科学技術」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議 化学委員会、物理学委員会、総合工学委員会、材料工学委員会
2. 共 催：日本放射光学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成26年10月31日（金）13：00～17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：なし
7. 開催趣旨：
日本学術会議“マスタープラン2014”に重点大型研究計画として採択された「新しい時代の科学技術立国を支える放射光科学の高輝度光源計画」は、中型高輝度放射光源の建設を提案するものであり、計画実現に向けての建設的・集中的な議論により、関連コミュニティ、研究者から、意見・助言を広く求め、計画の具体化に向けた学術会議としての合意形成を得ることを目的とする。
8. 次 第：
 - (1) 13:00-13:10 開会挨拶・趣旨説明
岩澤 康裕*（日本学術会議連携会員、電気通信大学燃料電池イノベーション研究センター長・特任教授）
 - (2) 13:10-13:40 中型高輝度放射光源のコンセプト
濱 広幸（東北大学 大学院 理学研究科 教授）
 - (3) 13:40-14:10 分子システム化学と放射光
君塚 信夫（日本学術会議連携会員、九州大学大学院工学研究院応用化学部門主幹教授）
 - (4) 14:10-14:40 材料開発と放射光; IGZO 開発への貢献

細野 秀雄* (日本学術会議第三部会員、東京工業大学フロティア研究機構教授)

14:40-15:00 休憩

(5) 15:00-15:30 ナノデバイス科学からの期待

大野 英男* (日本学術会議連携会員、東北大学電気通信研究所教授)

(6) 15:30-16:00 産業開発のツールとして

高尾 正敏 (大阪大学大型教育研究プロジェクト支援室特任教授)

(7) 16:00-17:20 総括ディスカッション：科学技術と放射光のこれから

福山 秀敏 (日本学術会議連携会員、東京理科大学副学長)

話題提供者：

北川 進* (日本学術会議第三部会員、京都大学物質－細胞統合システム拠点 拠点長・教授)

平野 俊夫 (日本学術会議第二部会員、大阪大学総長)

豊島 近 (日本学術会議 連携会員、東京大学分子細胞生物学研究所 分子構造・創生大部門生体超高分子研究分野教授)

清水 孝雄 (日本学術会議第二部会員、独立行政法人国立国際医療研究センター理事・研究所長、東京大学総長顧問)

常行 真司* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科・教授)

財満 鎮明* (日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院工学研究科教授)

山下 正廣 (日本学術会議連携会員、東北大学大学院理学研究科教授)

(8) 17:25-17:30 閉会の辞

家 泰弘* (日本学術会議第三部会員・副会長、東京大学物性研究所教授)

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

(*印の講演者等は、主催委員会委員)

(提案 16)

日本学術会議東北地区会議主催学術講演会「加速器科学が未来を拓く
ー医療・ものづくり・生命科学への応用ー」の開催について

1. 主 催 日本学術会議 東北地区会議
2. 共 催 岩手大学、日本学術会議同友会東北支部
3. 後援(予定) 岩手県、岩手県教育委員会ほか
4. 日 時 平成26年10月25日(土) 13:00～16:00
5. 場 所 岩手大学(盛岡市上田4丁目)
6. 次 第
 - (1) 13:00～13:10 開会挨拶
堺 茂樹(岩手大学学長)
 - (2) 13:10～13:30 主催者挨拶
未 定(日本学術会議会長)
未 定(東北地区会議代表幹事)
※平成26年10月に会員及び連携会員が改選されるため未定。
 - (3) 13:30～15:55 学術講演会
 1. 総論(加速器科学と東北放射光)
濱 広幸(東北大学電子光理学研究センター教授)
 2. 医療(重粒子線治療)
松村 明(筑波大学医学医療系教授・筑波大学附属病院副病院長)
 3. 医療(治療)
有賀 久哲(岩手医科大学医学部放射線腫瘍学教授)

4. ものづくり（放射光を用いた高度分析）

廣沢 一郎(財団法人高輝度光科学研究センター産業利用推進室室長)

5. パネルディスカッション

講演者3名

小川 彰(日本学術会議連携会員、岩手医科大学学長)

岩渕 明(岩手大学大学院工学研究科教授)

(4) 15:55~16:00 閉会挨拶

未 定

(提案17)

日本学術会議中部地区会議主催学術講演会「環境先進大学からの情報発信」の開催について

1. 主 催 日本学術会議 中部地区会議
2. 共 催 三重大学
3. 日 時 平成26年10月31日(金) 13:00～16:00
4. 会 場 三重大学(津市栗真町屋町1577)
5. 次 第
 - (1) 13:00～13:10 開会挨拶
内田 淳正(三重大学学長)
 - (2) 13:10～13:20 主催者挨拶
未 定(日本学術会議中部地区会議代表幹事)
春山 成子(日本学術会議連携会員 三重大学大学院生物資源学
研究科教授)
 - (3) 13:20～13:30 科学者との懇談会活動報告
丹生 潔(中部地区科学者懇談会幹事長)
 - (4) 13:30～15:55 学術講演会の演題及び演者
 - ・講演「未 定」
未 定(日本学術会議)
 - ・講演「全学で実践しているスマートキャンパスへの取り組み」
坂内 正明(三重大学大学院地域イノベーション研究科教授)
 - ・講演「海洋生物の利用～エコ天然物化学と情報発信～」
幹 渉(三重大学大学院生物学研究科教授)
 - (5) 16:00 閉会挨拶
吉岡 基(三重大学理事(研究・情報担当)・副学長)